

海洋状況把握



毎年海上の監視に多額の出費をしているにも関わらず、防衛・保安の組織は、効果的な領海の管理、違法航行の削減、違法漁業の廃絶、海洋保護区 (MPA) の監視において、未だにリソース不足の状態です。排他的経済水域 (EEZ) のみでも1億100万平方キロ¹もあり、従来の監視用資産では監視対象としてあまりにも広大でありすぎます。さらには、急速な技術の進展は、各保安組織がより高速、より多様で、検知がより困難な脅威に対峙することを意味します。

¹ UNEP/GRID-Arendal, "Continental Shelf: The Last Maritime Zone", 2011, p.28.

海洋状況把握(続き)

ウェーブグライダーにより海洋領域に対する意識を高める

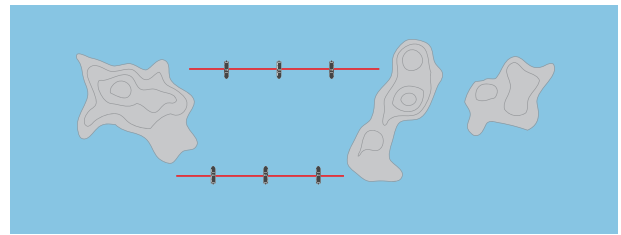
Wave Gliders*と呼ばれる波と太陽光により駆動の無人水上船(USV)は、24時間365日体制の長期海上監視用に低コストのモバイルプラットフォームを提供します。海上監視ソリューションのウェーブグライダーは、監視のコストおよびリスクを低減し、阻止・抑止能力を改善します。

監視ミッションの新タイプ: 海洋での継続的アクティビティモニタリングを可能にします。ウェーブグライダーは、所定位置まで正確に航行し同位置にとどまって、長期にわたりデータを収集します。

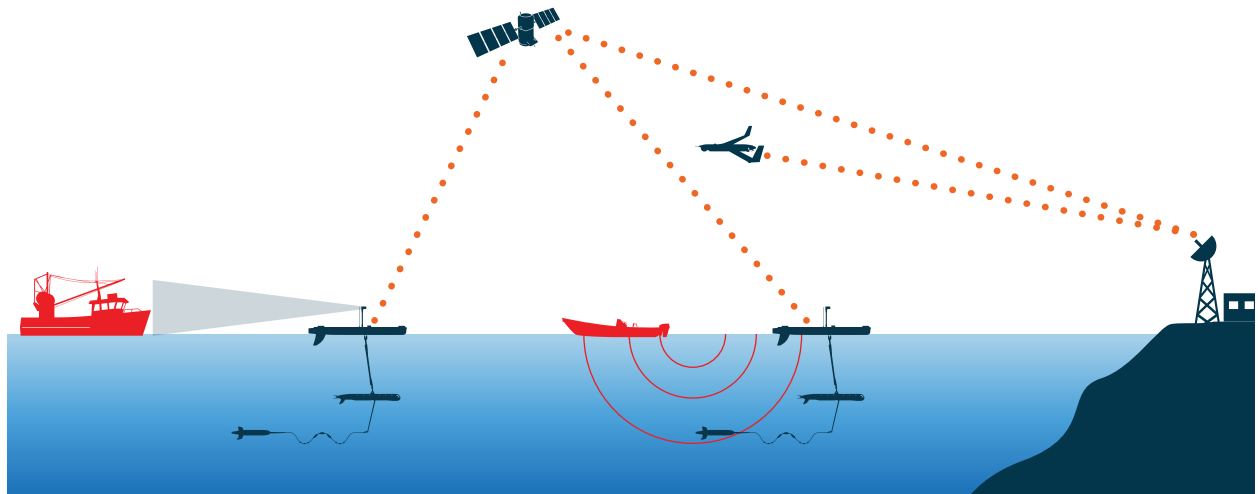
記録破りの耐久性: 長期間かつ長距離の対応能力により、新しいミッションタイプおよびデータ収集が実現可能です(ギネス世界記録 — 洋上ロボットによる最長の航海)。

海上監視コストの低減: 監視対象領域に侵入したり同域内で活動したりする船舶について、より費用のかかる資産を利用・投入する前に、ウェーブグライダーを種々の編成で配備して検知能力を改善します。

状況認識の強化: 継続的な監視、即時の警報発信、およびトラフィックパターンデータが、共通運用図(common operating picture=COP)へと統合可能です。



隘路においてトリップワイヤー保持位置に配備されたウェーブグライダー。さまざまな監視ニーズに合わせ、異なった編成とフリートサイズで配備します。



動作の仕組み

ウェーブグライダーは、曳航式パッシブ音響センサー、AIS(自動船舶識別装置)受信器、カメラ、およびBGAN衛星通信機能を装備しており、洋上船舶を検知するように配備します。

キーコンポーネント*

- ウェーブグライダープラットフォーム
- USSI社製パッシブ音響センサー
- AIS受信器、前向きカメラ、気象/波動センサー
- ミッションの計画、操舵、監視、管理をするためのミッション管理ソフトウェア
- ミッションデータを翻訳・表示するビジュアライザー
- データの抽出と統合を容易にするデータポータル

統合オプション

オープンプラットフォームのデザインにより、代替ハードウェア(例:カメラ、音響アレイ、通信リンク)やソフトウェアコンポーネントの使用、および共通運用図(common operating picture=COP)システムへの統合が容易です。

*海洋状況把握のウェーブグライダーは、米国または国外輸出管理法の対象となる場合があります。追加の詳細については弊社にお問い合わせください。